

## 皮ごと食べられるブドウ‘シャインマスカット’

果樹花き研究部

ブドウの新品種‘シャインマスカット’は、皮ごと食べられるブドウとして注目を集めています。この品種は独立行政法人農研機構果樹研究所で、‘安芸津21号’と‘白南’の交配により育成され、2006年に品種登録されました。これまでの‘巨峰’や‘デラウェア’と違って、果肉が硬めで、果皮が薄いため、皮ごと食べることができます。収穫期は8月下旬から9月中旬で‘巨峰’や‘藤稔’より少し遅めの収穫になります。糖度は約18Brix%で酸味が少なく、果肉が締まっており、さっぱりした食感と適度な甘みに加えて爽やかなマスカットの香りが特徴です。

栽培方法は、長梢、短梢いずれも可能ですが、樹勢の強い若い樹ではジベレリンを使った種なし栽培がおすすめです。病虫害は、欧州系ブドウの血を引いていることから、黒とう病への注意が必要となります。雨よけ栽培では病気の発生が抑えられますが、露地の場合は、通常の防除暦に加えて、発芽後の葉枚数2,3枚の頃(4月中旬)と新梢伸長期の5月中旬に殺菌剤を散布することにより、病気を予防することができます。べと病や晩腐病については通常の防除で抑えることができます。

この品種は全国的な注目を集めており、長野県や山梨県などの主産県では急速に栽培面積が拡大しています。県内ブドウ農家でも普及が始まっており、今後、生産量が伸びることが見込まれます。

当所では、神奈川のブドウ経営の特徴である‘巨峰’や‘藤稔’を主体とした直売経営を考慮し、これらの品種と合わせての販売が可能となるような、8月下旬収穫に向けた技術開発に取り組んでいます。特に、生育促進効果のあるシアナミド剤の処理方法について検討したところ、12月にシアナミド1%液(10倍液)を樹体に散布することにより、発芽が13日、開花期が5日早まり、8月下旬に収穫が可能となることが明らかとなりました。

今後は、品質向上のための環状剥皮の方法や、ホルモン剤(ホルクロルフェニユロンなど)を利用した大粒化技術等を検討していく予定です。



‘シャインマスカット’

表 ‘シャインマスカット’に対するシアナミド剤処理の影響 (2010年度)

シアナミド処理	発芽日	展葉始	開花盛期	収穫盛期	果房重 g	果粒重 g	Brix% %	酒石酸 g/100ml	無核果率 %
処理	3/30	4/3	6/6	8/24	503	13.4	18.9	0.64	100.0
無処理	4/12	4/14	6/11	8/31	531	11.2	19.2	0.68	96.3